

令和6年度 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	自分の思いや考えを大切にし、進んで伝え合う子の育成 ～相手意識・目的意識を持った主体的な伝え合いをめざして（国語科）～
教科・領域	国語科

2 主題設定の理由

本校は、「夢を持ち 理想に向かって 伸びやかに 毅然と進む ゆりのきっ子の育成」を学校教育目標に掲げ、これまでその具現化を図ってきた。本校の子ども達には、何事も素直な気持ちで受け止め、温かい気持ちを持って周りの人と接するなどのよい面が見られる。一方で、単学級でクラス替えがなく、転出入もほとんどないため、狭い交友関係の中で生活しており、学級の中での友達関係が固定化しがちである。子ども達のつながり方を見ていると、相手の思いを知ることなく、その子の一面だけを捉え、決めつけた見方をしてしまうことも少なくない。事実はどうだったか、その行為の裏にあるその子の思いや考えは何だったのかといったことに、思いをめぐらせることがなかなかできない。また、全体の中で自分の思いが出せなくても、限られた友達と一緒にいられて安心なため、まわりに目を向けることが少ない。そのため、相手を傷つけてしまったり、気持ちよくつながることができなかつたりする。語彙や表現力が不十分なことや、相手に寄り添って「聞く」ことが苦手なこと、相手の思いや考えから自分の考えを深めた経験の不足などの理由から、「相手とのコミュニケーションが円滑にはかることができない」ということが課題ある。

そこで、国語科の研究を通して、語彙や表現力を身につけさせ、「自分の思いや考えをもち、進んで伝え合う子の育成」を目指してきた。「自分の思いや考えを伝え合う」ためには、まず、それらを整理し、相手意識をもって表現することが必要である。「進んで伝え合う」ためには、相手を意識して「書く」活動を取り入れ、自分の思いや考えを整理することが大切である。また、みえスタディー・チェックの分析結果から、記述問題への解答率が低く、字数制限などの条件があると解答できない傾向がみられる。このことから、いろいろな条件に対応して文章を書かせることで、書くことに慣れさせることも必要であると考えた。「自分の思いや考えをもち、進んで伝え合う子」になるには、「伝え合うための基礎基本の定着」と「仲間づくり（落ち着いた学級経営）」が不可欠である。昨年度同様、これらを土台としながら、国語科の授業や日常の実践面において、互いに理解することの楽しさ、よさを実感させる手立てを講じていきたい。自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりする力を国語科の授業や日常の取り組みで育てていきたい。

3 研究内容及び方法

(1) 国語科に関わる取り組み

<授業の実践面から>

① 書く活動の充実

- ・相手や目的を意識させながら、思いや考えを書く活動や様々な場面で取り入れる。
- ・友達の思いや考えを聞いて、その良さを取り入れてノートにまとめるなどの書く活動に取り入れる。
- ・ワークシートや構成メモなどを活用する。
- ・書くことの支援が必要な児童に対して、視写の取り組みなどの手立てを考えたり、chromebook を有効活用したりする。また、モデル文を示し、書き方のモデルを伝える。
- ・全学年で、日記に取り組み、

② 言語活動の充実

- ・表現力の向上に向けて、つけたい力（指導事項）を明確にする。
- ・単元全体の学習計画を立て、見通しを持たせる。

③ 伝え合うための手立ての充実

- ・自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりしやすいように、ペアや小グループでの話し合いを工夫したり、グループワークを取り入れたりする。
- ・伝え合う内容を視覚的にわかりやすくするために、ICT 機器やホワイトボードを積極的に活用する。そのための研修会を設定する。

④ 授業スタイルの確立

- ・「めあて」に対しての「ふり返り」を書く活動を取り入れる。
- ・わかったこと、感じたこと、考えたこと、次時の学習への意欲を書くなど、「ふり返り」の視点を与える。
- ・「授業力 up5」を活用した授業改善に取り組む。

<日常の実践面から>

① スピーチの活用・工夫

- ・朝の会や帰りの会で、「スピーチ」の時間を設定し、年間を通して発表したり、相手の話を聞いたりする場を設定する。その際、テーマや、質問、感想を伝え合う時間を学年に応じて設定する。
- ・スピーチメモやスピーチ原稿の書き方の指導をする。（文章の構成 はじめ→中→おわり など）

② 日記や作文・手紙指導の充実

- ・常に相手意識を持たせて書くことや「5W1H」、「はじめ→中→おわりといった構成」、五感の活用などについて指導する。
- ・国語科に限らず、様々な場面で書くことに取り組ませることで、書くことへの抵抗感を少なくしていく。
- ・あいさつ状やお礼状など、様々な文章の書き方を取り入れる。

③ 読書活動の充実

- ・語彙を増やし、様々な表現方法や考え方にふれさせるため、また、様々な作者の考えや書きぶりにふれさせるため、朝の読書を継続し家庭読書の推進、図書館利用の推進、並行読書を取り入れる。
- ・家庭における読書習慣と学力との関係は深い。そこで、読書活動に積極的に取り組ませると

共に、読書週間の取組、読書ゆうびん活動の取組、相手意識を持たせて書かせる取組も行う。

④ 言葉の習得のための学習

- ・漢字学習を進める中で、言葉を習得させ、語彙を増やすための活動を取り入れる。
- ・辞書引きを推進し、語彙を増やす。
- ・語彙力を高めるため、「ことばのたからばこ」を活用する。

<教員の研修>

(1) 国語科に関わる取り組み

①全体研究授業は、低中高各1本とし、各学年部で取り組む。(予定は、7月・9月・10月・11月・12月・1月の中で) 今年度は、低高各1本とする。

※全体研究授業を行わない学年は学年部授業を行う。

※指導案は学年部で練り上げる。

※ゆりのき学級の研究授業についても、年間計画に組み入れていく。

②指導法や授業に対する困り感の交流を行い、国語教育に関わる授業力アップのための研修や、教材の開発、ICT、評価方法などについての教員に対する研修会を適宜設ける。

③年に1回程度、教職員全員で、先進校の研究会に参加し、国語の授業の進め方などについて共有をはかる。

(2) 基礎基本の定着・学力向上に関わる取り組み

①学習環境・学習規律の統一

・教室前黒板の周囲に掲示物を貼らない。

・発表の仕方や、聞き方の約束を統一し、各学級に掲示する。(「聞き名人」「話し名人」)

・低学年は箱型の筆箱を使用し、鉛筆4～6本、赤鉛筆(赤ペン)1本、消しゴム1個、定規を入れる。その他

の物に関しては、学年部で検討する。

・「チャイム席」「学習用具の準備」「姿勢と始まりの挨拶」を学習習慣とし、身につけさせる。

・ノート指導は各学年部で系統立てて行い、充実を図っていく。

・教室前の学年掲示板(昨年の玄関前より変更)に各学年の紹介コーナーを作り、普段の授業など学習掲示物として掲示する。クラスだけでなく全校児童にも発信していき、読む相手を意識した書く指導をしていく。(日記や普段のノート、行事の振り返り、授業で作った作品、自主学習など)

②一人ひとりの実態を意識した授業づくり

・「めあて」と「ふりかえり」を意識した授業づくりをする。国語の授業では、必ず「ふりかえり」を行い、児童の振り返りも含めて、学習評価を行う。また、児童の振り返りから普段の授業実践を見直し、指導と評価を一体化した授業づくりを目指す。

・ICT 機器やデジタル教科書、教材などを活用し、視覚的にわかりやすい授業づくりをする。

・全国学力・学習状況調査、みえスタディー・チェックなどから学年ごとに強みや弱みを分析し、その対策を授業づくりにいかす。

・年2回の「児童学習アンケート」とみえスタ・学調の結果分析から、児童の実態を把握するとともに、今後の授業改善につなげていく。

・特別支援コーディネーターと連携し、学習に困り感のある児童の把握と支援の検討、共通理解を図る。

③補充学習の取り組み

- ・朝の学習において、新出漢字の学習、タイピング練習、「100文字作文」、「読む書くワークシート」などを行う。
- ・算数、国語の基礎・基本の定着を図るため、「いきいきタイム」を5限目に全学年で取り組む。算数では学習ボランティアに丸付けを依頼し、担任は指導を中心に行うようにする。
- ・夏季休業中に、「いきいき(算数)教室」を3日間程度行う。
- ・全国学力・学習状況調査やみえスタディー・チェックの分析で弱みと分かった「字数制限」や「キーワードを入れて」書く活動を強化するため、「学-viva!!セット」を発展問題として活用する。毎月の「いきいきタイム」や夏季休業中・冬季休業中等の課題として活用する。
- ・学習支援ボランティアを活用する。

④家庭学習や家庭生活の充実・定着

- ・国語(漢字)、算数(計算)、音読を中心に宿題を出し、家庭学習の定着を図る。家庭学習時間は、学年×15分を目安とする。
- ・中学校校区で連携して、生活チェックシートを活用し、学期に1回を目安に、家庭生活と学習習慣の点検を行う。
- ・「家庭学習の手引き」で家庭学習の啓蒙を図り「自学ノート」の活用により、積極的な学習経験を積ませる。
- ・各学年に応じて、日記や絵日記・作文等の家庭学習も取り入れ、文章を書く経験を積ませていく。週1回は、日記の宿題を出す。日記の書き方の指導もする。コメントを書く、クラスで紹介するなどを行い、児童にフィードバックをする。
- ・家庭学習の手引きや自学ノートなどを活用して、積極的な学習経験を持たせていく。
- ・chromebookを持ち帰り、chromebookでの家庭学習も行う。内容は、各学年や児童の実態に合わせる
- ・学校での児童の姿や学習活動等を通信で保護者に発信し、教育活動を共有し家庭との連携を図っていく。「行事のねらい」「担任の考え」「子どもたちへの願い」なども通信で発信していく。

⑤読書活動・学校図書館活用の推進

- ・毎朝10分間「朝の読書」を行い、落ち着いた1日を過ごせるようにする。(担任等教職員も読書活動を行う。)
- ・様々なジャンルの本に出合うため、鈴鹿市版推薦図書を紹介し、読書の楽しさを感じられるようにする。
- ・「読み聞かせボランティア」(毎週木曜日)や、教師の読み聞かせなどにより読書習慣の定着を図る。

⑥キャリア教育の推進

- ・「すずか夢工房」や地域の方などを講師とし出前授業を行い、匠の技や先人たちの生き方を学び、自分の思いを発表する機会を設ける。
- ・ドリームマップやアウトリーチの取り組みを隔年で取り入れ、自分の生き方や将来の夢について考える機会を設ける。

⑦英語に慣れ親しむ環境づくり(前々年度からの継続)

- ・水曜日の短時間学習(朝の学習)で“E タイム”を実施し、全校で英語に親しむ機会を設定し、コミュニケーション力を育てる。
- ・各学年に応じたClass room Englishを積極的に活用し、英語に親しむ雰囲気を作り出す。

(3) 仲間づくりに関わる取り組み

- ・1学期に自分の目標をホワイトボードに書き、職員室前に掲示することによって、友だちの思いや考えを知る機会を設ける。3学期には、友だちの良いところについて掲示を行う。
- ・人権レポート交流会を年2回設け、子どもどうしのつながりや学級の取り組みについて見つめ直す機会を設ける。
- ・仲間づくりや自己肯定感の向上の視点から、道徳科の授業の研究やエンカウンターなどの授業に取り組む。

4 年間研修計画

	月	日	内容
一 学 期	4	2	研修委員会 ・研修部組織について ・研究主題について ・今年度の内容 など
		3	職員会議 ・研究主題の決定 ・研修部組織決定 ・家庭学習の手引き ・学校全体で統一する取り組みの確認 など
		10	研修委員会 ・研修計画について など
		17	全体研修会 ・指導案の形式 ・授業研の日程 など
	5	15	【全体研修会】 ・研究主題について
		27	いきいきタイム算数（5限）
		29	全体研修会（学習会） ・みえスタディー・チェック、全国学力・学習状況調査 採点・分析の交流
	6	10	いきいきタイム算数（5限）
		17	いきいきタイム国語（5限）
		21	全体研修会 国語科研究授業【6年】 事前検討会
		26	全体研修会 ・今年度の各学年の学力向上対策の交流
	7	8	全体研修会 国語科研究授業【6年】 事後検討会
		22	夏休みいきいき教室（午前）
		23	夏休みいきいき教室（午前）
			全体研修会（午後） ・第1回人権レポート研修会
		25	夏休みいきいき教室（午前）
	8	22	教育講演会（全員学習会）
		27	事前検討会 国語科研究授業【2年】講師：教育指導課 福井 浩美 先生 【人権教育【3年】
		28	教育研究集会（オンラインまたは各会場） ※庄内小発表

二 学 期	9		学年部研修会 国語科研究授業【2年】 事後検討会
		1 1	校内研修
	1 0	7	いきいきタイム算数（5限）
		2 1	いきいきタイム国語（5限）
			学年部研修会 国語科研究授業【年】 事後検討会
	1 1	1 1	いきいきタイム算数（5限）
			学年部研修会 国語科研究授業【年】 事後検討会
	1 2	9	いきいきタイム国語（5限）
			学年部研修会 国語科研究授業【年】 事後検討会
三 学 期	1	2 0	いきいきタイム算数（5限）
	2		【学年部研修】 ・各学年の考察、今年度の成果と課題のまとめ 等
		1 0	いきいきタイム国語（5限）
		1 7	いきいきタイム算数（5限）
		2 6	全体研修会 ・第2回人権レポート研修会
	3		全体研修会 ・各学年の考察の交流 ・今年度の成果と課題 ・次年度に向けて